

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		学部の設置								
フリガナ設置者		ガッコウホウジン シュウメイガクエン 学校法人 秀明学園								
フリガナ大学の名称		シュウメイダイガク 秀明大学 (The Shumei University)								
大学本部の位置		千葉県八千代市大学町一丁目1番1号								
大学の目的		<p>本学は、教育基本法並びに学校教育法に基づくとともに、本学の建学の精神である「常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする」を踏まえ、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ新しい時代に即応して国際的な広い視野と深い識見を有し、強い実行力を具えた人材を育成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的		<p>看護学部看護学科は、生命にかかわる専門職としての幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践能力、グローバル社会で活躍できる英語力と国際感覚、医療現場におけるITスキルと看護に必要な情報の活用能力、主体的な学修態度と自己研鑽の力を修得し、看護職として将来にわたって地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護師、保健師の育成を目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学部 [faculty of nursing] 看護学科 [department of nursing] 計	年 4 4	人 80 80	年次人 — —	人 320 320	学士 (看護学)	年 月 第 年次 平成29年4月 1年次	千葉県八千代市大学 町一丁目1番1号		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学部看護学科	講義	演習	実験・実習	計	130単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学部		教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		看護学		15人 (12)	3人 (2)	5人 (4)	6人 (6)	29人 (24)	9人 (9)	16人 (6)
	計		15人 (12)	3人 (2)	5人 (4)	6人 (6)	29人 (24)	9人 (9)	— (—)	
	既設	学校教師学部		25	10	9	4	48	1	30
		中等教育教員養成課程		(25)	(10)	(9)	(4)	(48)	(1)	(30)
		総合経営学部		8	1	5	0	14	0	23
		企業経営学科		(8)	(1)	(5)	(0)	(14)	(0)	(23)
		英語情報マネジメント学部		7	5	2	0	14	0	16
	分	英語情報マネジメント学科		(7)	(5)	(2)	(0)	(14)	(0)	(16)
観光ビジネス学部		8	2	2	2	14	0	8		
観光ビジネス学科		(8)	(2)	(2)	(2)	(14)	(0)	(8)		
計		48 (48)	18 (18)	18 (18)	6 (6)	90 (90)	1 (1)	— (—)		
合計		63 (60)	21 (20)	23 (22)	12 (12)	119 (114)	10 (10)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		12 (12)	43 (43)	55 (55)					
	技 術 職 員		1 (1)	2 (2)	3 (3)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	2 (2)	3 (3)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		14 (14)	47 (47)	61 (61)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	78,079.89㎡	0㎡	0㎡	78,079.89㎡		借用面積 32,171.73㎡ 借用期間: 21年(17筆) 24年(1筆) 26年(1筆)			
	運 動 場 用 地	69,522.0㎡	0㎡	0㎡	69,522.0㎡					
	小 計	147,601.93㎡	0㎡	0㎡	147,601.93㎡					
	そ の 他	5,527.06㎡	0㎡	0㎡	5,527.06㎡					
合 計	153,128.99㎡	0㎡	0㎡	153,128.99㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		30,384.78㎡ (30,384.78㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	30,384.78㎡ (30,384.78㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	54室	65室	16室	8室 (補助職員2人)	1室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称 看護学部看護学科		室 数		31 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分含む 図書2,263冊 〔197冊〕 電子ジャーナル1 〔0〕 視聴覚資料8点		
	看護学部看護学科	5,863〔497〕 (4,763〔397〕)	96〔18〕 (36)〔18〕	16〔13〕 (16〔13〕)	148 (128)	3,187 (3,187)	36 (36)			
	計	5,863〔497〕 (4,763〔397〕)	96〔18〕 (36)〔18〕	16〔13〕 (14〔13〕)	148 (128)	3,187 (3,187)	36 (36)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		1,594㎡		210席	130,000冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,579.7㎡		総合陸上競技場1面		プール棟1棟				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む
		教員1人当たり研究費等		130千円	130千円	130千円	130千円	—	—	
		共同研究費等		2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	—	—	
		図書購入費	21,470千円	13,475千円	15,800千円	15,800千円	15,800千円	—	—	
	設備購入費	152,801千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	—	—		
学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,750千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	秀 明 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	学校教師学部 中等教育教員養成課程	4年	200人	— 年次 — 人	800人	学士(教育学)	1.01倍	平成20年度	千葉県八千代市大学町一丁目1番1号	
	総合経営学部 企業経営学科	4年	90人	—	360人	学士(経営学)	1.14	平成13年度	千葉県八千代市大学町一丁目1番1号	
	英語情報マネジメント学部 英語情報マネジメント学科	4年	70人	—	280人	学士(経営学)	0.86	平成18年度	千葉県八千代市大学町一丁目1番1号	
観光ビジネス学部 観光ビジネス学科	4年	70人	—	280人	学士(経営学)	1.09	平成21年度	千葉県八千代市大学町一丁目1番1号		
附属施設の概要		なし								

## 教 育 課 程 等 の 概 要

（看護学部看護学科等）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	看護英語基礎Ⅰ	1前	1				○		1						
	看護英語基礎Ⅱ	1後	1				○		1						
	看護英語リーディングⅠ	2前	1				○		1						
	看護英語リーディングⅡ	2後	1				○		1						
	看護英会話基礎Ⅰ	1前	1				○								兼1
	看護英会話基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1
	看護英会話中級Ⅰ	2前	1				○								兼1
	看護英会話中級Ⅱ	2後	1				○								兼1
	コンピュータリテラシーⅠ	1前	2				○								兼1
	コンピュータリテラシーⅡ	1後	2				○								兼1
	総合教養演習Ⅰ	1前	1		2		○			13	3	4	6		共同
	総合教養演習Ⅱ	1後	1				○			13	3	4	6		共同
	総合教養演習Ⅲ	2前	1				○			13	3	4	6		共同
	総合教養演習Ⅳ	2後	1				○			13	3	4	6		共同
	総合教養演習Ⅴ	3前	1				○			13	3	4	6		共同
	教養数学	1前・後	2				○			1					
	教養生物学	1前・後	2				○			1					
	経済社会学総論	1前・後	2				○								兼1
	国語表現法	1前・後	2				○								兼1
	思想史総論	1前・後	2				○								兼1
	心理学総論	1前・後	2				○								兼1
	世界近現代史	1前・後	2				○								兼1
	日本近代史	1前・後	2				○								兼1
	日本現代史	1前・後	2				○								兼1
	法政治学総論	1前・後	2				○								兼1
	アジア文化論	3前	2				○								兼1
	イスラーム文化論	3前	2				○								兼1
	教養化学	3前	2				○								兼1
	教養統計学	3前	2				○								兼1
	教養物理学	3前	2				○								兼1
	芸術史	3前	2				○								兼1
	健康・スポーツ科学	3前	2				○								兼1
	自然科学史	3前	2				○								兼1
世界前近代史	3前	2				○								兼1	
日本近代文学	3前	2				○								兼1	
日本古典文学	3前	2				○								兼1	
日本前近代史	3前	2				○								兼1	
地理学	3前	2				○								兼1	
ヨーロッパ文化論	3前	2				○								兼1	
小計（39科目）	—	—	15	50	0				15	3	4	6	0	兼20	
専門基礎分野	生理学	1前	2				○		1						兼2
	解剖生理学Ⅰ	1前	2				○							兼2	
	解剖生理学Ⅱ	1後	2				○							兼1	
	病理学	2前	1				○		1						
	薬理学	2前	2				○								兼1
	生化学	2前	2				○								兼1
	免疫学	2後	1				○								
	臨床栄養学	2後	2				○		1						
	微生物学・感染症学	2後	2				○								兼1
	疾病と治療Ⅰ	2前	2				○								兼1
	疾病と治療Ⅱ	2後	2				○								兼1
	臨床心理学	3前	2				○								兼1
	生命倫理学	1前	1				○								兼1
	疫学	2後	2				○								兼1
小計（14科目）	—	—	23	0	2				1	0	0	0	0	兼7	
健康科目	社会福祉学	2前	2				○								兼1
	保健医療福祉行政論Ⅰ	2後	1				○		1						
	公衆衛生看護学概論	1後	2				○		1						
	保健統計学	2後	2				○								兼1
	生活環境と健康	1後	2				○								兼1
小計（5科目）	—	—	9	0	0				1	0	0	0	0	兼3	
専門分野Ⅰ	基礎看護学概論Ⅰ	1前	2				○		1						
	基礎看護学概論Ⅱ	1後	2				○		1						
	看護倫理	2後	2				○		1						
	看護過程	2前後	1				○		1						
	フィジカルアセスメント	2前	1				○	○	1		1	1			共同
	看護技術論	1後	2				○		1						
	共通看護技術	1後	1				○		1		1	1			共同
	医療支援技術	2後	2				○	○	1		1	1			共同
	生活援助技術	2前	2				○	○	1		1	1			共同
	看護コミュニケーション	2前	1				○		1		1	1			共同
	小計（10科目）	—	—	16	0	0				3	0	1	2	0	兼0
基礎看護学実習Ⅰ	1前	1						○	1				1		
基礎看護学実習Ⅱ	2前	2						○	1				1		
小計（2科目）	—	—	3	0	0				1	0	0	0	1	兼0	

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学部看護学科等)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	1前	2			○			2						共同
	成人看護の方法(急性期)	3前	2			○			2						共同
	成人看護の方法(慢性期)	2前	2			○			2						共同
	成人看護の方法(周手術期)	3前	2			○			1						共同
	小計(4科目)	—	8	0	0	—	—	—	3	0	0	0	0		兼0
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2					○	3			1	2		共同
	成人看護学実習Ⅱ	3後	2					○	3			1	2		共同
	成人看護学実習Ⅲ	4前	2					○	3			1	2		共同
	小計(3科目)	—	6	0	0	—	—	—	3	0	0	1	2		兼0
	老年看護学概論	1前	2			○			1						共同
	老年看護の方法Ⅰ	2後	1					○	1		1	1			共同
	老年看護の方法Ⅱ	3前	1					○	1		1	1			共同
	小計(3科目)	—	4	0	0	—	—	—	1	0	1	1	0		兼0
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2					○	1		1	1	1		共同
	老年看護学実習Ⅱ	4前	2					○	1		1	1	1		共同
	小計(2科目)	—	4	0	0	—	—	—	1	0	1	1	1		兼0
	小児看護学概論	1後	2			○			1		1				共同
	小児看護の方法Ⅰ	2後	1					○	1		1	1			共同
	小児看護の方法Ⅱ	3前	1					○	1		1	1			共同
	小計(3科目)	—	4	0	0	—	—	—	1	0	1	1	0		兼0
	小児看護学実習	3後	2					○	1		1	1	1		共同
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	0	1	1	1		兼0
	母性看護学概論	1前	2			○			1						共同
	母性看護の方法Ⅰ	2後	1					○		1		1			共同
	母性看護の方法Ⅱ	3前	1					○		1		1			共同
	小計(3科目)	—	4	0	0	—	—	—	1	1	0	1	0		兼0
	母性看護学実習	3後	2					○	1	1		1	1		共同
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	1	0	1	1		兼0
精神看護学概論	1後	2			○			1						共同	
精神看護の方法Ⅰ	2後	1					○			1				共同	
精神看護の方法Ⅱ	3前	1					○			1				共同	
小計(3科目)	—	4	0	0	—	—	—	1	0	1	0	0		兼0	
精神看護学実習	3後	2					○	1		1	1	1		共同	
小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	0	1	1	1		兼0	
統合分野	在宅看護学概論	1後	2			○			1	1					共同
	在宅看護の方法Ⅰ	2後	1					○		1	1				共同
	在宅看護の方法Ⅱ	3前	1					○		1	1				共同
	家族看護論	2前	2			○			1						共同
	小計(4科目)	—	6	0	0	—	—	—	2	1	1	0	0		兼0
	在宅看護学実習	3後	2					○	1	1	1		1		共同
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	1	1	1	0	1		兼0
	救急看護論	3前		1		○			1						兼1
	感染看護論	3前		1		○									兼1
	災害看護論	3前		1		○			1						兼1
	看護管理学	3前		1		○				1					兼1
	看護人類学	3前		1		○									兼1
	看護情報論	3前	1			○									兼1
	クリティカルケア論	4後		1		○									兼1
緩和ケア論	4後		1		○									兼1	
創傷ケア論	4後		1		○									兼1	
リハビリテーションケア論	4後		1		○			1						兼1	
性の健康看護論	4後		1		○			1						兼1	

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学部看護学科等)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
統合分野	看護研究方法論	3前	2			○			2						共同
	看護研究	4前後	2				○		12	3	5	4			共同
	小計(13科目)	—	5	10	0	—			12	3	5	4	0		兼6
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	2後	1					○	1	1				1	共同
	総合実習	4前	2					○	12	3	5	6			共同
	小計(2科目)	—	3	0	0	—			12	3	5	6	1		
看護師課程合計			—	122	60	2			15	3	5	6	9		兼34
保健師専門分野	公衆衛生看護対象論	3前			2	○				1					
	公衆衛生看護技術論	3前			2	○				1					
	公衆衛生看護診断論	3前			2	○			1						
	公衆衛生看護管理論	3前			1	○			1						
	保健医療福祉行政論Ⅱ	3前			1	○			1						
	小計(5科目)	—	0	0	8				2	1	0	0	0		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前			4			○	1	1				1	共同
小計(1科目)	—	0	0	4	—			1	1	0	0	1			
合計(120科目)			—	122	60	14	—		15	3	5	6	9		兼34
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>1. 次の①②③④⑤⑥を卒業要件とする。</p> <p>① 本学に4年以上在籍すること。</p> <p>② 学部の定める必修科目122単位をすべて修得すること。</p> <p>③ 選択科目として、基礎科目分野または他学部開設科目から4単位を修得すること。</p> <p>④ 【看護の統合と実践科目】の5科目「救急看護論」、「感染看護論」、「災害看護論」、「看護管理学」、「看護人類学」のうちから2科目2単位を修得すること。</p> <p>⑤ 【看護の統合と実践科目】の5科目「クリティカルケア論」、「緩和ケア論」、「創傷ケア論」、「リハビリテーションケア論」、「性の健康看護論」のうちから2科目2単位を修得すること。</p> <p>⑥ 必修科目と選択科目を合わせて130単位を修得すること。</p> <p>2. 保健師の資格を取得する場合は、卒業要件の他に保健師専門科目12単位と専門基礎科目「疫学」2単位を修得すること。なお、養護教諭2種免許を申請しようとする学生は、他学部開設科目の「スポーツ演習Ⅰ」、「日本国憲法」を修得すること。</p> <p>3. 学期(半年)の履修登録の上限は23単位とする。ただし、臨地実習はこれに含まず、本学の指定する期間に履修する。</p>								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授業科目の概要				
(看護学部 看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	基礎科目	看護英語基礎Ⅰ	医療・看護の分野で一般的に用いられている英語の入門科目とする。ハンドアウトを用い、病名や症状名など、どのような表現になるのかを連結形、接頭辞、接尾辞を紹介しながら学修していく。また毎時間小テストを実施し、用語の定着を図る。それと同時に、高校レベルの基礎的な文法でも読むことのできる医療や看護の場面で用いられる英文を紹介し、医療、看護で用いられる英語に親しませる。	
基礎分野	基礎科目	看護英語基礎Ⅱ	前期に引き続き、ハンドアウトを用いて、医学・看護の分野の専門用語(連結形、接頭辞、接尾辞など)を紹介し、難解な病名や医学用語をできるだけ効果的に習得する技術を身につける。また毎時間小テストを実施し、その定着を図る。それと同時に、看護や医療の場面で用いられる英文を基に、高校レベルの基礎的な文法を確実なものにする。	
基礎分野	基礎科目	看護英語リーディングⅠ	ハンドアウトを用いて、いろいろな科の患者さんの英文症例報告やカルテを読み、主訴、発病時、症状、既往歴、家族歴、検査結果などを示す表現に習熟する。毎週基本頻出表現の小テストを行い、その定着を図る。またそれと同時に、生命倫理、看護倫理に関する文献を講読し、英文読解力をつけると共に、テーマについてディスカッションを行いながら「看護倫理」に関する理解を深める。さらに、夏休みに実施される「海外看護事情研究」に備えて、看護史に関する文献を読み、近代看護の発展に寄与した人物についての知識を深める。	
基礎分野	基礎科目	看護英語リーディングⅡ	前期に引き続き、ハンドアウトを用いて、いろいろな科の患者さんの英文症例報告やカルテを読み、主訴、発病時、症状、既往歴、家族歴、検査結果などを示す表現に習熟する。毎週基本頻出表現の小テストを行い、その定着を図る。またそれと同時に、生命倫理、看護倫理に関する文献を講読し、英文読解力をつけると共に、テーマについてディスカッションを行いながら「看護倫理」に関する理解を深める。	
基礎分野	基礎科目	看護英会話基礎Ⅰ	(英文) English Conversation for Nursing I is a conversation course that will prepare students to use English as their working language at medical institutions in the future. Students will be able to explain a hospital's different departments and the services available. They will know body parts and be aware of different illnesses and treatments, be able to discuss daily routines and also chat with patients and their families about medical and other common matters as they go about their duties.  (和訳) 国際化の波は医療現場にも広がってきており、日本の病院やその他の医療施設でも外国人患者が増え、こうした人との意思疎通、特に英語によるコミュニケーション力が求められている。この講座では、身体の部位に関する語彙、痛みやかゆみ、ケガの種類などの症状に関する表現、医療職名や医療のさまざまな専門分野に関する基礎的な用語を紹介しながら、看護師が患者やその家族と接する際に必要とされる英語表現や職場で同僚と情報交換する際に必要な表現などを紹介する。	
基礎分野	基礎科目	看護英会話基礎Ⅱ	(英文) English Conversation for Nursing II is a conversation course that continues on from English Conversation for Nursing I will prepare students to use English as their working language at medical institutions. Students will be able to direct patients around a hospital and give them medical instructions. They will understand the English needed to take a medical history and be able to report medical information displayed on monitoring systems and prepare patients for surgery. Finally, students will be able to assist patients checking out of a hospital.  (和訳) 日本の病院やその他の医療施設で外国人患者に看護医療を提供する際に必要となる、基礎的な英語表現を指導する。前期に引き続き、患者とのラポールを築き安心感を持ってもらうために必要な英語表現を紹介するとともに、病院内の表示に関する語彙を確認し、院内の案内を英語で表現できるようにする。また、看護師としての職務を遂行する上で必要となる医療上の簡単な説明、例えば、入退院の際の注意事項や手術の際の注意事項について簡潔に説明できるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	基礎科目	看護英会話中級Ⅰ	<p>(英文) The aim of the lessons and activities prepared for Advanced Nursing English Conversation I is to get students to strengthen their English speaking skills as they learn more about the nursing profession. Students will be more aware of the different medical professionals and their skills and they will learn specialist vocabulary used in different sections of a hospital. The course also includes English activities to develop students' interpersonal skills for patient relations.</p> <p>(和訳) 英語のスピーキング能力を強化し、看護医療に従事する上で求められる中級レベルの英語表現を扱う。学生は医療に関する専門知識や技術が増すとともに、各セクションで使用される英語の語彙や表現にもその特有性があることを認識してくる。この前期の授業では、救急医療の現場、入院の際の照会、また、産婦人科や皮膚科、胃腸科などにおいて看護師として対応すべき実務に関する英語を扱う。さらに、学期末に実施されるイギリス研修に備えて、NHS病院の概要や医療現場に関する最新情報も提供したい。</p>	
基礎分野	基礎科目	看護英会話中級Ⅱ	<p>(英文) Following on from Advanced Nursing English Conversation I, the aims of the activities prepared for this course is to give students more practice with English used for daily medical purposes. Topics include general surgery, the heart, the renal system and infectious diseases, pain and caring for the elderly. Again students will be introduced to some simple recreational activities in English that they may have the possibility to use with patients in their workplaces in the future for rehabilitation. Finally, the importance of hygiene is also is also considered and discussed in English.</p> <p>(和訳) 英語のスピーキング能力を強化し、看護医療に従事する上で求められる中級レベルの英語表現を扱う。学生は医療に関する専門知識や技術が増すとともに、各セクションで使用される英語の語彙や表現にもその特有性があることを認識してくる。この後期の授業では、手術の際に必要な表現、臓器に関する内容、感染性疾患、年配者の介護、リハビリテーション現場での表現、衛生学に関する語彙などを扱う。そして、将来実際に患者と接するときを想定した模擬会話演習を行う。</p>	
基礎分野	基礎科目	コンピュータリテラシーⅠ	<p>情報機器の基礎的操作を学習し、基礎的なソフトウェアを活用できる能力を養う。コンピュータリテラシーⅠでは、パソコン関連機器の操作に始まり、パソコン操作の基本でもあるオペレーティングシステム(Windows)の基本機能及びタイピングの学習を行う。文書作成ソフトのMicrosoft Wordと表計算ソフトのMicrosoft Excelについて学習を行う。加えて、マイクロソフトの資格試験「MOS資格」合格のために問題対策を行い資格合格のための実力をつける。</p>	
基礎分野	基礎科目	コンピュータリテラシーⅡ	<p>情報機器の基礎的操作を学習し、基礎的なソフトウェアを活用できる能力を養う。コンピュータリテラシーⅡでは、表計算ソフトのMicrosoft ExcelとプレゼンテーションソフトのMicrosoft PowerPointについて学習を行う。前期と同様にマイクロソフトの資格試験「MOS資格」合格のために問題対策を行い資格合格のための実力をつける。</p>	
基礎分野	基礎科目	総合教養演習Ⅰ	<p>総合教養演習Ⅰ～Ⅴは、「生命にかかわる専門職としての豊かな教養、人間性の涵養、高い倫理的感受性を高め、地域包括ケアシステムの中で、地域の医療専門職と連携・協働し、看護の専門性を発揮できる」ことを目的に1年前期から3年前期までの5期連続の科目として学修段階別に継続的に実施される。演習Ⅰでは、生命に関わる専門職となる自分と看護の対象となる他者の理解および地域で生活する人々の理解を深める。各グループで自己と他者および地域で生活する人々を理解するために文献を調べてまとめる。文献から得られた知識を素に、自分と他者、地域で生活する人々を理解するための行動計画を立て、実施・評価し、発表する。このプロセスを通して、自己を分析し、他者や地域で生活する人々との関係のあり方を考察すると同時に、大学で学んでいくためのアカデミックスキルを修得する。Ⅰ～Ⅴを通して、統合分野の「看護研究」の基礎科目としても位置づけられる。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	基礎科目	総合教養演習Ⅱ	総合教養演習Ⅱでは、病院・施設・地域で生活する看護の対象となる人々を理解するために文献を調べてまとめる。文献から得られた知識を基に、病院・施設・地域で生活する看護の対象となる人々を理解するための行動計画を立て、実施・評価し、発表する。このプロセスを通して、病院・施設・地域で生活する看護の対象となる人々への援助のあり方について考察すると同時に、大学で学んでいくためのアカデミックスキルを修得する。Ⅰ～Ⅴを通して、統合分野の「看護研究」の基礎科目としても位置づけられる。	共同
基礎分野	基礎科目	総合教養演習Ⅲ	総合教養演習Ⅲでは、病院・施設・地域で生活する看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護することの重要性を理解する。各グループで、病院・施設・地域で生活する看護の対象となる人々の権利、看護実践に関わる倫理について文献を調べてまとめる。文献から得られた知識を基に、病院・施設・地域で生活する看護の対象となる人々の権利が侵害されている事柄を取り上げ、権利を擁護するための看護の役割について考察する。病院・施設・地域で生活する患者の権利を守ることの重要性を理解するための行動計画を立て、実施・評価し、発表する。Ⅰ～Ⅴを通して、統合分野の「看護研究」の基礎科目としても位置づけられる。	共同
基礎分野	基礎科目	総合教養演習Ⅳ	総合教養演習Ⅳでは、各看護分野における看護の特徴と、地域で様々な活動を行っている看護職について理解を深める。各自、関心の高い看護分野を選択し、選択した看護分野毎のグループで、その分野の看護の対象・看護技術および地域での活動の特徴について文献を調べてまとめる。文献から得られた知識を基に、選択した看護分野の理解を深めるための行動計画を立て、実施・評価し、発表する。Ⅰ～Ⅴを通して、統合分野の「看護研究」の基礎科目としても位置づけられる。	共同
基礎分野	基礎科目	総合教養演習Ⅴ	総合教養演習Ⅴでは、地域における患者中心のチーム医療について理解を深める。各グループでチーム医療を構成する各職種の専門性について文献を調べてまとめる。文献から得られた知識を基に、多職種と協働し、医療連携を推進するための看護職の役割について考察する。患者中心のチーム医療の重要性を理解するための行動計画を立て、実施・評価し、発表する。総合教養演習Ⅴは、Ⅰ～Ⅳの学びの蓄積を踏まえ、生命にかかわる専門職としての豊かな教養、人間性の涵養、高い倫理的感性を高め、地域包括ケアシステムの中で、地域の医療専門職と連携・協働し、看護の専門性を発揮できる能力を養う。Ⅰ～Ⅴを通して、統合分野の「看護研究」の基礎科目としても位置づけられる。	共同
基礎分野	基礎科目	教養数学	高校数学の確認からはじめ、順列と組合せ、確率と統計の概念を把握することから基礎的な数式を使った論理、推論を展開し、コンピューターを用いた具体的な手順および可視化方法を学び、統計データを正しく処理するための統計学の基礎を修得する。また、得られた結果を正確に表現、理解、解釈し、関連する課題を把握するための実用的な知識を学ぶ。統計学は教養の数学の中で、医療、看護、衛生関係に最も関連する科目で、本講義はそのような実用的な統計学への入門である。	
基礎分野	基礎科目	教養生物学	生物学の基礎から生命科学までを学ぶことにより、幅広く生命現象を理解する。講義では、生物学の基礎のほか、注目を集めている様々な生命現象や研究内容(例として細胞内情報伝達、遺伝子組み換え、遺伝子診断、万能細胞、進化など)を理解する。生物学上の発見によってどのようなことが実現可能になってきているのかを知る。	
基礎分野	基礎科目	経済社会学総論	グローバル化、IT化や金融危機といった世界情勢を、そして少子高齢化、格差社会、ニート・引きこもりといった現代日本が抱える問題を、あなたは議論できるだろうか？これらの問題はあなたの将来にも影響する事柄である。本講義は、これらの切実な問題を経済学に基づき解き明かしていく。また、大学生が最低限身につけているはずだと社会に期待されている、経済社会に関する知識や見解を学修することが本講義の目的である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	基礎科目	国語表現法	母国語である「日本語」を使いこなす力は勉学のみならず、生活していく上で基礎となる大切な力である。本講義は、「正しい」日本語の知識を会得するだけでなく、コミュニケーションの媒介としての「伝わる日本語」が適切に使えるようになることを目的としている。そのために必要な様々な練習を授業内において積み重ねていく。大学で学び、その学んだことを社会生活で生かすためにも実生活で役立つ日本語能力を身につけなければならない。自分の伝えたいことを即座にその場に応じた表現を使って伝えられる能力が今求められている	
基礎分野	基礎科目	思想史総論	人間は「考える」動物である。この「考える」という特性のために、私たちには様々な疑問が生まれてきた。「私たちはなぜ生まれたのだろうか」「正しい生き方とはどのようなものなのか」「世界はなぜ存在するのだろうか」「神はいるのだろうか」などなど。哲学や宗教は、こうした人間の根源的な問いに答えようとする営みである。本講義では、古代から現代に至る世界と日本の哲学・宗教を思想史として紹介し、学生諸君の思想的基礎を作ることが目的である。	
基礎分野	基礎科目	心理学総論	「自分を知る」、「社会の中で生きる」、「まわりの世界を知る」、「環境に適応する」という4つの視点から、広く深いところの世界をどのようにとらえているかを学ぶ。特に、青年期の特徴や大学生としての自己を適切に理解し、まわりの世界や人々とのつながりの大切さを認識する機会となるように講義を進める。心理学的な知見を活かし、これからの社会生活や学習活動がより豊かなものになるように学修することを講義の目的とする。	
基礎分野	基礎科目	世界近現代史	本講義は、近現代における世界の歩みを概観し、我々がいま生きている世界(=現代社会)に対する理解が深まることを目指す。授業では常に、そもそも「近代」「現代」とは一体何か、それはいつ、どのように始まったのかを問いながら、世界史の重要な出来事を、その原因や結果も含めながら考察し、知識を修得してゆく。同時に、環境問題、貧困とテロといった、今日世界が直面している様々な問題を多面的に捉え、より良い解決法を見出すためのヒントを提供する。	
基礎分野	基礎科目	日本近代史	日本史における近代は、近世に続く時期区分であるが、近世と近代を分かちものは何であろうか。言い換えれば「近代化」とは何であろうか。本講義では、幕末から昭和初期にいたるまでの日本近代史の流れをわかりやすく解説し、この疑問を政治史的・経済史的あるいはその他の文脈に従って理解することを試みる。この過程で、日本近代史の概要を学習し、近代日本の成り立ちに関する知識を習得してもらうことが本講義の目的である。	
基礎分野	基礎科目	日本現代史	20世紀は、戦争と共産主義の時代であったといえる。また、アジアが台頭し、ナショナリズムが形成された時代でもあった。このような激動の時代の中で、日本は様々な選択をした。そして、その結果、現在の私達が住んでいる日本の姿がつけられた。本講義では、日中戦争から現在にいたるまでの世界の流れをわかりやすく解説する。日本現代史の概要を学習し、現代日本社会の成り立ちに関する知識を習得することが本講義の目的である。	
基礎分野	基礎科目	法政治学総論	日本国民として最低限理解しておくべき法学、政治学の基本的事項をわかりやすく解説する。法学分野では、日本の最高法規である日本国憲法の制定過程、基本理念を確認したのち、「民法」と「刑法」のエッセンスを学ぶ。政治学分野では、国会、内閣、裁判所の仕組み及び選挙制度を学び、さらには「全体主義」や「ジェノサイド」など、近現代社会の課題についても学ぶ。	
基礎分野	基礎科目	アジア文化論	アジアの文化を特徴づけている要素とは何か。本講義では、文化をより広くとらえ、人々の生活スタイル、価値観、そして政治文化などから、「アジア的」とされる文化について考えていきたい。本講義では一例としてシンガポールを取り上げる。シンガポールは「アジア的価値」を標榜しており、西洋との対比においてアジア文化を考える絶好の事例を提供している。講義では毎回異なるトピックを取り上げるが、全体を通じてアジア文化とは何か、批判的に検討したい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	基礎科目	イスラーム文化論	日本や欧米諸国では、「イスラーム」という言葉に対してテロやファナティシズム、異教徒に対する聖戦(ジハード)などといったネガティブなイメージをもつ者が多い。彼らは、同時に、千夜一夜物語やスカーフ姿の女性などに対してはエキゾチシズムを感じるという。いずれにせよ「イスラーム」とは、私たちの日常とはかけ離れた存在であるとの印象を持たれがちである。本講義では、イスラームの歴史や教義について、またムスリムの日常生活に注目し、イスラーム世界を概観する。	
基礎分野	基礎科目	教養化学	大学以前の化学教育、特に義務教育課程に採り上げられてきた内容には、十分掘り下げられずにきた概念、触れられなかった化学史上のトピックスも多い。これらを主な題材とし、特に歴史上の元素観の変遷に焦点を当てて講義を進める。また、身の周りにおける物質を選び、簡単な実験を行って、そこに含まれる代表的な元素の性質とその用途を解説する機会がある。	
基礎分野	基礎科目	教養統計学	統計とは、現実にあるデータを分析するための方法論である。統計を利用することで必要な情報の全体を捉え、まとめられることが可能となる。それにより、不確かな問題であっても客観的で科学的な仮説を立て、結論を導くことができる。従って現代において統計はデータ科学の数理として重要な役割を担っており、その知識は真に役立つものである。本講義では実際のデータを使い、統計表や統計グラフを使って可視化することを学ぶ。また、データに対し整理や要約などの処理を行い、分析する手法についても紹介する。	
基礎分野	基礎科目	教養物理学	ニュートン力学に始まる古典物理学の一般的な教養レベルの解説と、応用力を養うための問題演習を行う。内容は力学、電磁気学、波動、原子核と電子である。単なる公式の暗記ではなく、数式が表現している自然現象を把握し、日常生活で観察する種々の現象と比較し、次に起こる現象を想像することを求める。物理学の一般教養の学習と同時に、論理的な思考力や説明力の育成にもつながるように配慮し、授業中の質疑応答を多く取り入れる。教員採用試験や就職試験の一般教養試験対策としても受講可能である。	
基礎分野	基礎科目	芸術史	誰もが旅行先で歴史的な建築物を見学したり、美術展やクラシックのコンサートに行くなど、芸術や音楽は私たちの生活にとってかなり身近なものになっている。しかし一方で「あまりよくわからない」といって敬遠してしまう人がいることも事実だろう。本講義では日本及び世界の代表的な建築、絵画、音楽作品、そしてそれぞれの作品や様式が誕生した歴史的背景について、作品を鑑賞しながら学び、芸術に対する基本的な知識を身につける。	
基礎分野	基礎科目	健康・スポーツ科学	本講義は、健康で快活な生活を送るためには、運動・栄養(食事)・休養(休息)のバランスが重要であり、そのためには規則正しい生活リズムの確立が不可欠であるという観点に立ち、これらに関連したテーマを取り上げて学ぶ。具体的には運動では体力および体カトレーニングの方法、加齢と体力、運動障害と応急処置、栄養に関連して食事と栄養、朝食の重要性、肥満防止の工夫、休養に関してはその代表である睡眠を中心に取り上げる。また、新聞やテレビニュースなどで扱われる授業に関連した健康・スポーツに関わる時事の話題を積極的に織り込み、講義内容の理解に役立てる。	
基礎分野	基礎科目	自然科学史	自然科学の各分野(数学・物理学・化学・生物)の歴史について、古典的概念の成立から近年の科学技術の発展までを俯瞰して、科学全般に対する興味関心を高めることを目的とする。すでに完成した理論を学ぶだけでは、その理論が紆余曲折を経て完成したものであることが実感しにくい。実際、無理数の発見・地動説の提唱・元素論の発展・遺伝子論の発展などは、当時の研究者が従来の常識を覆した重要な歴史を持つ。これらの歴史を学ぶことによって、科学そのものに対する理解が深まり、現在進行形で科学が発展していることの実感も得られる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	基礎科目	世界前近代史	本授業では、近代以前における「国家」はいかなる特徴を持ち、それは「近代国家」とどのような違いがあるのかということについて、ギリシャ、ローマ、エジプトなどを例にとりながら考察を深めていく。そこでは前近代世界における「国家」の役割、および統治方法、または「宗教」との関係、統治下にある人々の生活や心情あり方などが問われるだろう。また同時に、今日のいわゆる「国民国家」の特徴についても考え、我々はいまどのような時代に生きているのか、「国家」は将来どうなるのかということについても議論していきたい。	
基礎分野	基礎科目	日本近代文学	文学には、それぞれの時代を生きた人々の考え方や価値観、社会全体の問題が個人の生活にどのような影響を及ぼしたかが、明確に表れている。本講義では、日本の近代文学の代表的な作品を鑑賞することで、明治維新以降、近代化の流れのなかで、作家たちがどのようにして新しい表現を模索していったのかを理解するとともに、作品に表れている人々の生活や価値観の変化を考えてみたい。明治以降の近代社会が抱えていた問題は、私たちの生きる現代にも大きな影響を及ぼしている。近代文学の鑑賞を通して、このような近代という時代のイメージを具体的に持ってもらいたいと考えている。	
基礎分野	基礎科目	日本古典文学	①一般教養として知っておきたい古典作品の解説と古典文学周辺の知識の講義を行う。 ②古典作品独自の世界観を学びつつも、現代とつながるという視点から古典を体感し、主体的に古典を読む訓練をする(創作体験型授業)。 *毎回の出席や課題提出を前提とした授業形式であるが、特に、以下の3点に留意してほしい。 (1)体験型授業のため、全員の発言や他者とのディスカッションなどを頻繁に求める。 (2)創作活動を頻繁に行う講座である。創作作品は公開し、各自講評する機会を定期的に設ける	
基礎分野	基礎科目	日本前近代史	日本の社会を形成した各時代の人々の生活を国際的な観点を含む多様な観点から考察し、現代に繋がる日本の政治・経済・社会・文化等の特色について理解を深めることを目的とする。日本列島に日本人の祖先が定住して以来、今に至るまで日本ではどのような社会が展開したのか。この講義では様々な資料をもとに地域的・時代的な特色を踏まえて、現代に至る日本社会の特色を紹介し、発展の諸相を辿ってみたい。	
基礎分野	基礎科目	地理学	地理学は、地球の表面で展開するあらゆる自然現象や人々の暮らしに関わる幅広い領域を対象とする総合的な学問分野である。本講義では、世界および日本における様々な地理的現象について、地形や気候などの自然環境や、民族・言語・宗教や人口、産業などの人文現象について系統的(テーマ別)に講義する。それにより、地理学に関する基礎的な概念や用語について、具体的な事例に則して修得することを目的とする。	
基礎分野	基礎科目	ヨーロッパ文化論	本講義は一般的にイメージされるヨーロッパについての知識を深めていくものではない。むしろ、ヨーロッパあるいはヨーロッパ文化とは何かを改めて問いなおす試みである。本講義では、ヨーロッパの外側からのまなざし、そしてヨーロッパから外側へと向かうまなざしに注目して、多様なヨーロッパ像を見ていきたい。なお、履修者数に応じて形式を変更することがある。	
専門基礎分野	専門基礎科目	生理学	正常な生体機能を理解するとともに、正常から逸脱した種々の病態に対しても「何故そうなるのか？」という考える姿勢を重視することで看護学部学生として必要な知識の修得を目指す。 到達目標は人体の各機能とその相互の関係について「基本的事項を理解」することとする。したがって個々の事柄をばらばらに暗記することでは目標を達成しえない。解剖学、生化学との関連性も充分に把握してもらい学生の理解度をたしかめながら講義をすすめる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	解剖生理学はⅠとⅡを合わせて、身体の構造と機能を全般的に学習する構成になっている。解剖学は身体の構造を、生理学は身体の機能を対象とする学問である。身体を学ぶ上で、構造と機能を分離して考えることはできない。本講義では、我々自身でもあるヒトを対象とした解剖学・生理学を学ぶものであり、看護師として必要となる基礎医学のベースの習得を目指す。本講義では、体を構成する上肢・下肢、体幹の筋・骨の運動器、ならびに呼吸・循環、血液といった運動や生命維持に関わる領域を扱う。	
専門基礎分野	専門基礎科目	解剖生理学Ⅱ	解剖生理学はⅠとⅡを合わせて、身体の構造と機能を全般的に学習する構成になっている。解剖学は身体の構造を、生理学は身体の機能を対象とする学問である。身体を学ぶ上で、構造と機能を分離して考えることはできない。本講義では、我々自身でもあるヒトを対象とした解剖学・生理学を学ぶものであり、看護師として必要となる基礎医学のベースの習得を目指す。本講義では、体内環境の維持に関わる内分泌系、泌尿器系や、産科の基礎となる生殖と発生、エネルギー源の摂取を行う消化器系、情報ネットワークである神経系、感覚器系を扱う。	
専門基礎分野	専門基礎科目	病理学	人体の正常な構造と機能の理解をもとに、病気の成り立ちと人体における病的変化(生体の異常状態において人体の構造や機能がどのように変化するか)を学ぶことが目的である。具体的には、病気の原因が加わった時に発生する細胞・組織の障害、障害を受けた細胞・組織の修復の過程について学修した後、様々な病気を理解するうえで基本となる「循環障害」「炎症」「代謝障害」「腫瘍」「先天異常」「老年病」の考え方、メカニズムについて講義を行う。	
専門基礎分野	専門基礎科目	薬理学	薬理学は医薬品の生体に対する作用を解析する学問である。薬がどうして病気の治癒に有効なのかを解き明かす科学であることを念頭に置き、基礎となる薬理学的用語を概説した上で、分子レベル、細胞レベル、そして個体レベルでの代表的な薬物の薬理作用を理論的に理解する。その上で、肝臓等における薬物代謝を中心に薬物の体の中の動きについて概説する。到達目標は代表的な薬物についての作用機序・副作用を学ぶことにより、薬理学の基本を理解することとする。解剖学、生理学との関連性も踏まえつつ、学生の理解度をたしかめながら講義をすすめる。	
専門基礎分野	専門基礎科目	生化学	本講義では、生命を維持する仕組みを理解するため、生体成分の構造と機能を分子レベルで概説する。すなわち、遺伝子やゲノムとは何か、DNAやRNAとは何か、タンパク質はどのように合成されるか、染色体とは何か、染色体は細胞分裂周期においてどのような動態を示すかを概説する。また生体内の反応を触媒する酵素の性質について解説する。生体のエネルギー源として中心的役割を果たす糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝経路についても解説する。そして、それらの制御の乱れがどのように疾病につながっていくかについて学ぶ。	
専門基礎分野	専門基礎科目	免疫学	自己成分と非自己成分とを認識して働く生体防御機構である免疫反応について講義し、病原微生物を排除する免疫系など生体防御機構の仕組みや、各種のワクチンが感染症の予防にどのような役割を果たしているかといった免疫学的知識を習得させる。さらに、アレルギーや自己免疫疾患が生じる過程を概説する。また、臓器移植やがんと免疫の関係についても学ばせる。病院内での治療に際し、看護師の感染防御能を援助するという視点も会得させる。	
専門基礎分野	専門基礎科目	臨床栄養学	肥満症、糖尿病、メタボリックシンドローム、脂質代謝異常症、高血圧症、慢性腎臓病などの生活習慣病の予防や治療には、食事・栄養管理が大変重要である。臨床栄養学は、患者の症状や病態、治療法に対応した食事・栄養管理を行い、病気の治療だけではなく病気の進行や合併症、再発を防止し医療費の削減へとつながるため、看護学部学生としても必要な分野である。到達目標は、疾患別に、どのような栄養・食事療法が必要とされるのかを正しく理解し、栄養・食事計画立案のサポートができる力を身に付けることとする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	専門基礎科目	微生物学・感染症学	本講義では、感染症をおこす代表的な微生物である、病原細菌、ウイルス、真菌、マイコプラズマ、寄生虫・原虫等についての基本的知識とその特徴について概説する。さらに、微生物がヒトに感染症を引き起こす過程を概説する。また、感染症の診断や予防、微生物を除去する方法についても学習する。感染症を発症するかどうかはこれらの感染防御能の低下が関わっている場合が多い。感染症治療に際し患者の防護能を援助するという視点を会得する。	
専門基礎分野	専門基礎科目	疾病と治療 I	内科系疾患の疾患概念と診断、治療について学習する。学習範囲は、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、心脈管疾患、内分泌・代謝・栄養疾患、腎疾患、血液疾患、感染症、脳・神経・筋疾患、アレルギー・免疫疾患で、看護攪演習、実習に必須となる知識を学ぶ。内科学の基礎の十分な理解は看護の実践に必須であり、さらに高度で専門的看護を実現には、基礎的知識に基づき、急速に進歩を続ける臨床医学の先端知識を正しく理解することが必要である。講義は、生涯にわたり看護学を自己研鑽することができる基礎的能力を醸成する。	
専門基礎分野	専門基礎科目	疾病と治療 II	一般外科系疾患の病態・診断と治療について学習する。外科的侵襲(手術侵襲)を中心に、生体に及ぼす侵襲の概念および侵襲に対する生体の反応や栄養・代謝との関連について習得する。さらに、外科的治療を受ける患者の介護に必要な医学的基礎知識を学び、主要臓器(消化器・内分泌・乳腺・循環器など)および小児の外科的疾患について、代表的な疾患の概念と外科的治療法、手術適応、術後管理、合併症とその対応を学習し、外科系の看護に必要な判断力、応用力を身につける。	
専門基礎分野	専門基礎科目	臨床心理学	臨床心理学は「臨床(床に臨む)」という言葉がついていることからわかるように、医療分野と結びつきの深い学問である。臨床心理学は、不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、その問題を軽減、解消することを目的としている。心身の病いを理解するために、その基礎として臨床心理学を学ぶことは、看護の実践に役立つものである。講義では、理解しやすいようにDVDなどの視聴覚教材も使い、自己理解を深めるための簡単な心理検査を実施することも予定している。	
専門基礎分野	専門基礎科目	生命倫理学	「倫理」という言葉は、「倫」(人と人との間)と、「理」(ことわり)という意味を有する。医学の進歩や社会の変化、人々の価値観の多様化などにより、医療の現場は、多くの倫理的問題を抱えており、医療従事者は日々それらにたいする確かな判断や解決を、限られた時間のなかで求められる。本講義では、看護の専門家として必要不可欠な高い倫理性を身につけるべく、医療にまつわるさまざまな倫理的問題について取りあげ、倫理的な考え方や人間理解への関心を深めながら、議論を交わすことで、一緒に学んでいきたい。	
専門基礎分野	専門基礎科目	疫学	人間集団における健康状態とそれに関連する要因の頻度と分布を明らかにし、健康問題に対する有効な対策をたて、公衆衛生の発展を目指す疫学について講義する。疫学の定義と歴史、疫学指標、疫学研究の概要、疾病リスクと疫学要因、因果関係の判定、資料の利用方法、スクリーニング、感染症の疫学、標本抽出、疫学における統計処理など具体的手法や臨床応用についてわかりやすく紹介し、学生が健康・医療問題の解決力を身に付けることを目的とする。講義では学生が興味を持って学べるよう、具体的資料、事例紹介・映像を多数織り交ぜて講義を進行する。	
専門基礎分野	健康科目	社会福祉学	少子高齢社会、人口減少社会の中で様々な社会問題が惹起しているが、それに対応する中核的な政策としての社会福祉・社会保障制度は、国民全体のみならず、学生自身にとってあるいは医療従事者としても重要な課題といえる。本講義を受講することにより、社会福祉を取り巻く社会状況を概観し、社会福祉・社会保障制度を理解し、福祉・保健・医療の諸問題とそれへの対応を修得する。さらに、国家試験に対応できる知識を修得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	健康科目	保健医療福祉行政論 I	健康で文化的な生活を送るための保健・医療・福祉に関する様々な制度・施策の基礎的知識を学ぶ。また、看護活動の展開と関連付けて、最近の保健・医療・福祉に関する施策と将来の課題について学ぶ。保健・医療・福祉行政の基礎的な事項を講義する。さらに身近な医療制度や医療保険・介護保険制度も理解できるようにする。また、成長発達及び健康のレベルに沿って出生から高齢者までの保健・医療・福祉の施策を講義する。演習では、市町村保健センター及び保健所について、自分及び家族の生活とのかかわりを考える。	
専門基礎分野	健康科目	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護の理念および活動等を理解し、健康問題を地域社会情勢との関連で捉え、保健師の役割及び機能について学ぶ。公衆衛生看護とは何かについて、医療機関での看護、在宅看護等と関連させながら概説する。その上で、公衆衛生看護の機能、公衆衛生看護の対象、公衆衛生看護の行われる場について理解できるようにする。そして、行政、産業、学校等における公衆衛生看護活動の特徴と保健師の役割を講義する。	
専門基礎分野	健康科目	保健統計学	標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、また、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学についての学修を行う。さらに、実践に即した具体例を用いた実習を行うことで医療・看護・保健活動および看護研究において必要と考えられる能力を養う。	
専門基礎分野	健康科目	生活環境と健康	環境と健康・医学についての生命科学について学ぶ。4つの環境要因の生物的要因、物理的要因、化学的要因、社会・文化的要因の健康への影響や、発生過程・ライフコースでの影響について理解を深める。また、環境汚染によるヒト健康影響から、リスクアセスメントやリスクコミュニケーション、最近の環境健康医学のトピックを学び、そして、学んだ内容に関してその内容と自分の意見を伝えることが出来る能力をつける演習を行う。	
専門分野 I	基礎看護学科目	基礎看護学概論 I	看護実践に必要な、看護の基本概念を看護の定義、看護の歴史の変遷や看護の機能と役割、看護の目的・対象・専門職の看護実践者としての看護師について、主要な看護理論家の看護概念の基本知識が理解できるよう教授する。主体的学習として文献検索、ディスカッション・発表・質疑応答というグループ学習を適宜組み合わせ、共有した学びを活かしながら自らの考えをまとめる演習も取り入れる。また、看護実践の場で活動する医療チームメンバーから実際の講話から、看護に対する考えを倫理観や感性に反映させ、看護とは何か追究する姿勢を身につける。	
専門分野 I	基礎看護学科目	基礎看護学概論 II	看護専門職者として援助的人間関係の基本概念を、看護におけるケアとケアリング理論の概要が理解し、相互性・関係性を深めながら看護実践の大切さを学ぶ。また、看護過程は、看護を提供する際に用いる科学的思考過程の技術である。看護理論の意義と分類、主な看護理論の概要が理解できるよう、看護過程の意義と基本的要素を理解することを目指す。グループ学習を適宜組み合わせ、共有した学びを活かしながら自らの考えをまとめる演習も取り入れる。看護とは何かを追究し、看護に対する考えを更に統合し、深め拡大して欲しい。	
専門分野 I	基礎看護学科目	看護倫理	生命・医療倫理と看護倫理の関係、医療倫理の主要な概念、および現代の医療における倫理的課題について解説する。次いで看護倫理の主要な概念である看護倫理原則、ケアリング、アドボカシーや看護者の倫理綱領について理解を深め、さまざまな看護活動において求められる看護倫理について考察を行う。最後に倫理的問題を同定し説明ができる能力を養うため、看護実践事例の倫理的検討を行う。また、看護倫理の実践における看護管理者の役割についても理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 I	基礎看護学 科目	看護過程	看護の対象を系統的に理解し、その対象への看護援助を計画・実施・評価するための思考過程とその表現および一連の過程の妥当性の検討方法を修得する。看護過程の歴史的背景や看護学における位置づけを踏まえ、看護過程の展開とその妥当性の検討方法について解説する。また、生活援助技術における既習内容、および基礎看護学実習Ⅱとタイアップし、講義前半は生活援助事例を、後半は受け持ち事例を用いて看護過程を展開し、一連の思考過程とその妥当性を検討しながら講義する。	共同
専門分野 I	基礎看護学 科目	フィジカルアセスメント	看護の対象の健康状態や病状、看護援助に関する情報を、系統的に収集しアセスメントする技術を身につける。看護におけるフィジカルアセスメントの位置づけ、頭部から爪先までの身体を系統的に診察する技術とそのアセスメントについて解説する。演習では系統別(頭頸部、眼・耳・鼻・口・胸部(肺・胸郭/乳房・リンパ系/心臓・血管系)、腹部、直腸・肛門・外生殖器・鼠径部、四肢(筋・骨格筋系/末梢血管系、神経系)に診察を行い、その結果のアセスメントを行う。	共同
専門分野 I	基礎看護学 科目	看護技術論	今も尚エビデンスに基づく看護実践の重要性が言われ続けている。本科目は、「共通看護技術」と並行し学習しながら、知識・技術そして看護専門職者としての態度の基礎を修得するための学習方法がわかる。看護過程は、看護における問題解決手法を学習し、看護を提供する際に用いる科学的思考過程の技術を学ぶ。本講義では、看護過程の意義と基本的要素、科学的思考プロセス過程を理解するための導入とする。そして内容は2年次前期科目の「看護過程」へと連動する。	
専門分野 I	基礎看護学 科目	共通看護技術	すべての看護技術の共通基盤となる技術を修得することを目的とする。具体的な内容としては、看護者が被看護者に必要な援助を判断し安全に実施するために必要な、感染防止、バイタルサイン、ボディメカニクスを取り上げ、その原理と方法を解説する。演習ではスタンダードプリコーション、バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧)測定、ボディメカニクスの原理に則った看護者の基本的な動きについて実践し、その技術を修得する。	共同
専門分野 I	基礎看護学 科目	医療支援技術	疾病の治療や障害の回復に必要な医療処置を、人体の構造と機能を踏まえた自律した判断に基づき、安全・安楽に支援できる技術を実践できる基盤を作る。疾病の治療と障害の回復に必要な医療処置を支援する技術、すなわち、経口外栄養法、検査支援、与薬、酸素化と換気、排泄コントロール、創傷管理、体温管理について、その観察、支援根拠と方法を解説する。特に身体侵襲と苦痛を伴う技術であるために、使用器材の取り扱いや各技術における正確さと誠実さ、それらを裏づける十分な観察とその結果の判断を重視した演習を行う。	共同
専門分野 I	基礎看護学 科目	生活援助技術	日常生活の基本となる人々の行動、すなわち、生活環境調整、食事、排泄、清潔、更衣、活動、休息、死の看取りについて、その観察、成立根拠、援助方法を、入院生活と比較しながら解説する。演習では、基本となる援助技術に加え、様々な条件、状況の事例を用い、グループで検討しながらその事例に合った方法を見出し実践して評価する。その際、背景となる看護観や倫理観、援助時の効果的なコミュニケーション、共通看護技術の応用について、既習内容を随時入れ込みながら行う。	共同
専門分野 I	基礎看護学 科目	看護コミュニケーション	本講義では、看護の現場で必要となる看護コミュニケーションの技術を、コミュニケーション技術、カウンセリング技術、看護における人間関係理論の3項目に分けて段階的に解説する。また、看護コミュニケーションの基礎力の獲得をめざし、援助過程における人間関係形成、不安等の対応、意思表示への支援、コミュニケーション、相談技術、カウンセリングの各項目について演習を行う。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 I	基礎看護学 科目	基礎看護学実習 I	看護師および医師をはじめとする他の医療専門職者の実践活動を理解し、看護の使命と役割を考え、看護職を目指す者としての基盤を作る。病院見学や看護活動場面の見学および参加を通して、病院の役割と機能、看護の役割と機能を学ぶ。看護対象の療養生活や日常生活援助の実際を学ぶ。対象の反応や看護師との会話の中から情報を得て、患者の気持ちを理解する。対象とコミュニケーションをとり、対象を理解する。対象の安全・安楽・自立(自律)を踏まえ、個性に配慮した看護について考察する。看護の学習者として適切に行動するなどが目標である。	
専門分野 I	基礎看護学 科目	基礎看護学実習 II	看護の対象を総合的に理解し、看護過程を展開し、よりよい健康状態に向け、日常生活を整えるために必要な看護活動を学ぶ。具体的には、①対象を総合的に理解するために知識を活かし、全体像を把握する。②対象をより良い健康状態に向けるために看護過程を展開し、日常生活援助の一部を計画・実施・評価できる。③対象に関わる保健・医療チームと看護チームの関連、役割を理解する。④対象および対象を取り巻く人々との関わりを通して、看護への関心・理解を深めることが目標である。	
専門分野 II	成人看護学 科目	成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴および各期の発達課題について講義とグループワークを通して考察し理解を深める。次いで、ストレス、生活習慣病、職業病など現代社会における成人の特徴的な健康問題について考えを深め、予防に向けた看護の知識を習得する。また、各健康障害の段階(急性期、回復期、慢性期、終末期)にある成人の看護の特性についても理解を深め、最後に、成人期にある人を看護する上で有用なモデル・理論、ヘルスアセスメントについて学ぶ。	共同
専門分野 II	成人看護学 科目	成人看護の方法(急性期)	急性期および急性期看護の概念とその特徴について学習する。急性期にある人とその家族に対する看護を理解するために、急性期にある人の身体的、心理的・社会的特徴、疾病やその治療、クリティカルケア看護の定義、対象、場、特徴について学習する。また、急性期看護の展開と看護実践をするために必要な専門的知識と技術を修得する。さらに急性期医療にかかわる医療チームメンバーそれぞれの役割と連携について学習する。	共同
専門分野 II	成人看護学 科目	成人看護の方法(慢性期)	成人期にある人々の特徴や看護の概念を踏まえた上で、慢性的な健康障害を抱え長期にわたってセルフマネジメントが必要となる患者・家族の理解と看護について理解を深める。次いで、主な器官・機能(呼吸器、循環器、泌尿器、内分泌機能、栄養代謝機能)に障害をもつ成人の看護実践について、特徴的な疾患を通して学び、終末期にある成人患者・家族の看護について理解を深める。後半は、慢性期にある成人患者に必要な看護援助技術の習得および看護過程の展開を具体的に学び理解する。	共同
専門分野 II	成人看護学 科目	成人看護の方法(周手術期)	成人期の患者の看護をする上で、重要な急性期から回復期・社会復帰に至るまでの過程、さらに退院支援を含む援助方法について学ぶ。特に、手術を受ける患者の術前・術中・術後と回復期における身体的、精神的、社会的特徴についての知識と援助方法を学ぶ。それにもとづいて、呼吸・循環・消化器系機能に障害をもつ対象と家族の健康問題について事例を取り上げ、健康問題解決のために必要な援助について学ぶ。	
専門分野 II	成人看護学 科目	成人看護学実習 I	急性期および慢性期治療の場で展開されている看護実践を学び、それぞれの部門における看護の機能と役割を理解する。専門外来、手術室、集中治療部にて2週間実習する。専門外来では定期的な受診・治療が必要な疾患を持ちながら社会生活を営んでいる患者の特徴と看護の実際、手術室では安全な手術のための環境と看護の実際、集中治療部では急性期にある患者の特徴と合併症予防、安全・安寧を考慮した看護の実際について、主に看護援助の見学を通して学ぶ。また、実習を通じ、各部門における看護師の役割について考察する。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野Ⅱ	成人看護学 科目	成人看護学実習Ⅱ	急性期や周手術期、クリティカルな状態にある成人患者に対して適切な援助を行うために必要な援助技術を学ぶ。成人看護学実習Ⅰでの専門外来や手術室、集中治療部での見学実習の成果をもとに、急性期または周術期の対象を受け持ち、系統的な情報収集とそれに基づくデータベースの作成と分析、看護問題の抽出、個別性を踏まえた援助計画の立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。また、これまでの講義、演習、実習で学んだ知識、技術を駆使し、行動計画に基づいた看護実践をし、その評価から今後の課題を明らかにする。	共同
専門分野Ⅱ	成人看護学 科目	成人看護学実習Ⅲ	慢性期および終末期にある患者とその家族の特徴を理解し、すでに修得した知識と技術を統合しながら、患者の健康レベルに応じた看護を実践できる能力を養う。慢性期系病棟で2週間実習し、主として慢性期・終末期にある患者を1～2名受け持ち、看護過程を展開しながら、患者とその家族の健康問題を明らかにし、問題解決に向けた看護援助を実践する。患者に合ったセルフケアの確立とQOLの向上を目指し、患者の健康レベルや疾病の受容状況などに応じた援助方法を理解する。	共同
専門分野Ⅱ	老年看護学 科目	老年看護学概論	老年期を生きる高齢者の身体的、精神的、社会的変化を生涯発達の見点から捉え、その健康と豊かな暮らしについて学習する。また、高齢者を取り巻く環境をふまえて、健やかな老いと人生の終焉に向けた支援を含む基礎的知識を習得する。目標は、①生涯発達の見点から高齢者の身体的、精神的、社会的変化と特徴を説明できる。②高齢者の生活史の中で培われた価値観や健康について理解し、豊かな暮らしについて考えることができる。③老年看護に活用できる理論を理解し、健やかな老いへの支援に役立てる。④高齢者の健康問題と保健医療福祉制度を説明できる。⑤尊厳ある介護と看取りについて記述できる。⑥老年看護の課題と展望について考えることができる。	
専門分野Ⅱ	老年看護学 科目	老年看護の方法Ⅰ	老年期にある人の健やかな老いとその支援を学び、生活に焦点を当てた看護の方法の理解および技術を習得する。また、高齢者の発達的特徴と加齢による心身の変化が生活に及ぼす影響をふまえて、自立・自律を促しかつ機能低下を予防する観点から、その人らしさを尊重した生活を支える看護の基礎を学ぶ。目標は、老年期にある人の①健やかな老いとその支援、②加齢に伴う心身の変化③加齢に伴う心身の変化のアセスメントと生活支援④特徴的な症状と看護⑤保健医療福祉のシステムと多職種連携の5点について述べるができることである。	共同
専門分野Ⅱ	老年看護学 科目	老年看護の方法Ⅱ	健康問題を抱えた老年期にある人の身体的、心理的、社会的側面を理解し、回復にむけた看護の方法の理解と技術を習得する。また、その人らしさを尊重した生活を支える看護を学ぶ。目標は次の4点である。①老年期にある人に特徴的な疾患・治療とそれに対する看護について説明できる。②老年期にある人とその家族の生活の場と心身の状況に応じた看護について説明できる。③老年期にある人の生活を活性化させるアクティビティケアを企画できる。④事例演習を通して、健康問題および生活機能障害をもつ老年期にある人のアセスメントおよび計画立案ができる。	共同
専門分野Ⅱ	老年看護学 科目	老年看護学実習Ⅰ	加齢に伴う疾病や障害を抱えた高齢患者とその家族に対し、病院・施設での看護ならびに自宅への退院に向けた継続看護を学ぶことを目的とする。具体的な目標は次のとおりである。①脳血管疾患や運動器疾患の障害を抱える高齢患者の看護過程を展開し、実践することができる。②退院後の自立支援に向けて、リハビリテーションにおける高齢患者の身体・精神・社会面の特性を理解することができる。③高齢患者を取り巻く病院、施設、地域における関係職種・機関のチーム連携について学び、看護職の役割について考えることができる。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野Ⅱ	老年看護学 科目	老年看護学実習Ⅱ	障害を抱えながら地域で生活する高齢者とその家族の特性を理解し、地域の保険・医療・福祉サービス期間と連携しながら、高齢者が地域で生活し続けるための継続看護を実践するための能力と態度を養うことを目的とする。具体的な目標は次のとおりである。①介護老人保健施設で生活する療養者を全人的に理解し、施設における看護の機能と役割を理解する。②認知症高齢者とその家族を全人的に理解する。③施設および地域における保険・医療・福祉の連携および社会資源の活用を理解する。	共同
専門分野Ⅱ	小児看護学 科目	小児看護学概論	子どもと家族の健康を守るために必要な基本的知識および小児看護学の基礎となる考え方を学び、子どもと家族を援助する基礎的な能力を養う。具体的な内容は次の5点である。①小児看護の理念・役割、子どもの権利について学ぶ。②子どもの成長・発達や子どもと家族の生活や環境について学ぶ。③子どもと家族にかかわる保健医療や福祉のシステム、関連する政策等について学ぶ。④子どもの事故や救急、感染症や予防接種について学ぶ。	共同
専門分野Ⅱ	小児看護学 科目	小児看護の方法Ⅰ	子どもが病気や障害をもつことによってどのような影響を受け、子どもと家族がその状況にどのように適応しようとするのかを理解し、子どもと家族を援助する看護実践について習得する。主な内容は次のとおりである。①病気や入院が子どもと家族に与える影響を理解し、その看護について学ぶ。②子どもによくみられる諸症状に対する看護について学ぶ。③疾病や障害がある子どもと家族への看護について学ぶ。	共同
専門分野Ⅱ	小児看護学 科目	小児看護の方法Ⅱ	さまざまな健康レベルにある子どもと家族の状況を適切に査定し、援助を行うための基礎的な知識・援助技術を習得し、それらを用いた子どもと家族への具体的な働きかけの方法を学ぶ。具体的には次の2点である。①事例を用いて子どもと家族に対する看護過程の展開について、グループワークを通して学ぶ。②根拠に基づく子どもと家族の援助技術について、演習を通して学ぶ。	共同
専門分野Ⅱ	小児看護学 科目	小児看護学実習	疾病や入院が小児に及ぼす影響を理解し、疾病の回復および正常な成長・発達を促進させるよう、小児および家族に適切な看護を実践する基礎的な能力を養うことを目的とする。具体的な目標は次のとおりである。①健康な小児の心身の発達を正しくとらえ、疾病・入院が小児の発達に及ぼす影響を理解する。②小児と保護者の関わりの意義および役割の重要性を理解する。③個々の小児の発達段階および健康障害に応じた援助が出来る。④チームの一員として自己の役割を認識し、活動に参加できる。⑤小児にふさわしい入院環境と継続看護のあり方を考える。⑥自己の小児観を育てる。	共同
専門分野Ⅱ	母性看護学 科目	母性看護学概論	子どもの誕生は、家族にとって最もドラマチックな出来事の一つである。母性の健康は、子どもが健やかに育つ基盤であり、その身体的、精神的および社会的機能が順調に発揮できるように援助することが母性看護の役割である。したがって、母性看護の対象には、成熟期の女性のみならず、その準備期にあたる思春期や母性継承期にあたる更年期・老年期の女性も含まれており、夫や子どもなど、その家族も母性看護の対象となる。母性看護の歴史の変遷、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを踏まえ、現代の女性のライフサイクルに合わせた母性看護の役割・援助方法や他職種との連携について学ぶ。	
専門分野Ⅱ	母性看護学 科目	母性看護の方法Ⅰ	妊娠期・分娩期における女性の身体的・心理的・社会的適応の知識、および新生児期の生理的特徴について学び、母子に必要な援助方法と基本的看護ケア技術を修得する。具体的には、正常妊娠の経過、妊婦の日常生活援助、妊娠期の異常と援助、妊娠期のアセスメント、分娩の要素・経過と援助、分娩期の異常と援助、分娩期のアセスメント、妊娠期・分娩期の看護技術、新生児の生理とアセスメント、新生児期の援助、新生児の異常と援助、妊娠期・分娩期・新生児期の看護である。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野Ⅱ	母性看護学 科目	母性看護の方法Ⅱ	1. 産褥期における女性の身体的・心理的・社会的適応の知識を学ぶ。1) 子宮復古や母乳分泌の促進のケア 2) 母子関係を構築するために必要な知識を得る。2. 褥婦と家族の看護 1) 身体機能の回復促進 2) 母乳分泌促進 3) セルフケア 4) パースレビュー 5) 退院後の看護 6) 育児支援 3. 産褥期の異常と看護 4. 新生児の生理と援助 5. 事例を用いて母子(褥婦と新生児)の看護過程を展開できる。1) 情報の整理・アセスメント・ケアプランの作成 2) 事例をもとにロールプレイ、必要なケアを実施・評価してみる。6. 演習 新生児のフィジカルアセスメントと沐浴	共同
専門分野Ⅱ	母性看護学 科目	母性看護学実習	妊娠・分娩・産褥期および新生児期を中心とした母性看護学の対象者とその家族に対し、看護過程を展開するための基礎的実践能力を養う。対象者の生理的、心理・社会的特徴とその経過を理解し、対象者とその家族に対して健康増進と家族関係(母子関係を中心として)確立を目指した看護過程を展開し、必要な基礎技術を習得する。具体的には、妊娠期、分娩期、産褥期それぞれの観察・アセスメントと保健指導、看護援助について実習するとともに看護計画の立案と実施・評価、新生児の観察、アセスメント、看護計画の立案と実施・評価である。	共同
専門分野Ⅱ	精神看護学 科目	精神看護学概論	本講義では、精神看護・精神保健の役割を、人が自己実現へと向かう過程を支えるために、精神的・身体的・社会的な援助を提供することとし、その役割をはたすために必要な精神看護の基本概念と倫理観を学ぶ。また、精神科看護の基礎として精神障害・精神疾患の発症メカニズムと診断基準を学び、治療経過やその時の症状に合わせた療法や対応方法についてその根拠を理解する。最終講では、精神障害者の人権と医療倫理について考察する	
専門分野Ⅱ	精神看護学 科目	精神看護の方法Ⅰ	精神障害者へのケアの前提としての患者―看護師関係についての理解を深め、精神障害者とその家族に影響を与える法制度をはじめとする社会的背景について学ぶ。また、精神障害者とその家族の心理的・社会的・身体的状況への洞察を深め、精神疾患からの回復へのケアの考え方と展開方法を学ぶ。主な内容は次のとおりである。ケアの前提・原則・方法、患者―看護師関係でおこること、入院治療の意味、治療環境、安全を守る、回復を助ける、治療と身体ケア、身体合併症・フィジカルアセスメント、地域における精神看護、看護師のメンタルヘルス。	
専門分野Ⅱ	精神看護学 科目	精神看護の方法Ⅱ	本講義は、精神看護学概論および精神看護の方法Ⅰで学習した知識をもとに、精神障害者とその家族を全人的に理解するための視点および自立して地域で生活するための支援方法についての知識・技術・態度を演習を通して具体的に学ぶ。また、精神障害者とその家族を取り巻く社会環境について洞察を深め、精神看護の役割について探求する。主な内容は次のとおりである。対人援助技術(コミュニケーション)、精神症状とアセスメント、精神医療と社会、ペーパー・ペイシエントによる看護過程、精神医療と倫理。	
専門分野Ⅱ	精神看護学 科目	精神看護学実習	臨床体験を通して、精神の健康に問題を抱える対象者への援助の基本的姿勢と看護過程の展開方法を学ぶ。対象を多面的に観察し、科学的な視点でアセスメントする。対象者との関係性を構築する。チーム内の職種の役割を認識し、看護の役割を理解する。治療関係と生活環境を考察する。退院後の支援の必要性や社会資源の活用を考察する。主な療法と事故防止の必要性を理解し、具体的な援助を実施する。人権擁護とノーマライゼーションについて正しく理解する。精神の健康に問題を抱える対象者への援助を通して自己洞察するなどが主な内容である。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
統合分野	在宅看護学 科目	在宅看護学概論	在宅看護の対象者の理解と在宅看護の内容について、人口構造や疾病構造などの社会的背景の変化による社会保障制度の創設や制度の仕組みを踏まえて教授する。また、看護学における統合分野としての位置づけの理解、公衆衛生看護学と在宅看護学との関係性の理解、在宅医療の現状や在宅ケアシステム、地域包括ケアシステムの学習を含めた内容とする。主な内容は、在宅看護学と社会背景の変化、在宅看護の対象者と在宅療養、公衆衛生看護学と在宅看護学、在宅医療の仕組みと現状、在宅介護の実態と課題、障がい者総合支援法の仕組み、難病法)の仕組みなどである。	共同
統合分野	在宅看護学 科目	在宅看護の方法Ⅰ	在宅で医療管理を必要とする療養者および家族介護者が、地域における療養生活の継続を支援するために必要な看護の知識と技術を教授する。在宅看護過程の展開方法を学び、療養者と家族介護者が抱える医療看護課題、生活課題の明確化と解決の具体的な方法について、事例を活用した授業とグループワーク演習により指導する。主な内容は、社会保障制度改革と背景、在宅医療の現状と在宅療養者と家族介護者の理解、訪問看護・介護保険制度、障害者総合支援法、在宅ケアチームと地域包括ケアシステム、24時間ケアを要するターミナル期の事例などである。	共同
統合分野	在宅看護学 科目	在宅看護の方法Ⅱ	在宅で医療管理を必要とする療養者および家族介護者の、地域における療養生活の継続を支援するために必要な看護の知識と技術を教授する。訪問看護における日常生活援助および看護援助について、事例を用いた講義とロールプレイによる演習を行う。また、在宅看護に導入されている医療機器、福祉用具の使用方法を学内演習で学び、在宅看護学実習に連動する内容とする。主な内容は、在宅看護の実際(生活の場の理解、療養者情報の整理と看護問題に対する対応策、在宅サービスの種類とサービス内容、サービス週間スケジュールの作成)、訪問看護演習、在宅療養者の状態に合わせた看護などである。	共同
統合分野	在宅看護学 科目	家族看護論	看護のどの領域でも、家族抜きには考えられないし、患者と家族は一体のものと考えていかざるを得ない。ここでは、家族をシステムとしての特徴を有しながら発達している1単位の生命体としてとらえ、家族看護学のさまざまな理論と技法を学ぶ。家族看護論の目標は次のとおりである①.家族の機能、形態と家族看護学の考え方を理解する。②家族看護学における対象を理解する。③家族看護学における目標、看護過程、評価の一連の過程を理解する。④家族看護実践と社会的・文化的背景を理解する。	
統合分野	在宅看護学 科目	在宅看護学実習	在宅療養者と家族介護者の、療養生活の継続を支援するために必要な看護の知識と技術、在宅看護過程の展開について実習を通して学修する。具体的には、医療支援室の実習(2日間)と訪問看護ステーションでの実習(8日間)を組み合わせた2週間の実習を行って①在宅看護の実践に必要な在宅サービス、ケアマネジメント、多職種連携の実際②医療機関から在宅医療への移行における看護師の役割について学ぶ。	共同
統合分野	看護の統合と実践 科目	救急看護論	救急看護の概念と救急患者の特徴および看護の役割を理解した上でその実践方法を学び、臨床現場で活用できる能力を習得する。救急看護の概念と救急看護を受ける患者の特徴および救急看護の役割について説明する。次いで、一次救命処置の実技レベルの演習をとおして心肺蘇生法を学んだ後、救急患者のアセスメントに必要な基礎的知識を習得する。最後に病院内急変時の対応に関する知識・技術を習得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
統合分野	看護の統合と実践科目	感染看護論	感染の成立と予防に関する基本的考え方を学ぶ。 微生物の特徴や免疫のしくみと生体の防御機構、薬理学(抗菌薬療法について)などの知識を活用して、感染症患者や易感染患者、侵襲的処置を受ける患者などのアセスメントと看護の要点について学習する。 医療関連感染に関する基礎知識や考え方を理解し、医療関連感染の予防や管理、医療施設における組織的活動の実際と看護師および上級実践看護師の役割について学習する。また、感染看護を行う上で、必要な倫理的視点について考える。	
統合分野	看護の統合と実践科目	災害看護論	災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の発生時から直後、中期、長期にわたって必要となる看護について学ぶ。災害の概念や災害サイクル、災害の疾病構造、救急医療と災害医療の異なり、および、災害看護の特殊性について説明する。次いで、防災の重要性とその実際、災害時における人々の生命や健康障害を支えるために必要な災害看護実践の基礎的知識・技術について理解を深め習得する。最後に、災害時の国際的な協力活動について考察を深める。	
統合分野	看護の統合と実践科目	看護管理学	良好で質の高い看護サービスを提供するために、組織におけるマネジメントの基本的考え方や、看護管理の概念と知識を学び、看護職個人および看護組織が担う役割を理解する。さらに医療施設における看護職の実践活動の現状や課題を看護管理の視点で概観し、質の高い看護サービスが効果的・効率的に提供される看護提供システムの在り方や変革について考える。主な内容は、看護職の役割と機能、看護管理の概念、看護管理のスキル、看護サービス管理、看護の質保証、医療安全、看護と経営、看護管理と倫理である。	
統合分野	看護の統合と実践科目	看護人類学	文化は、人間のものの見方や感じ方、日常の行動、人間関係などに大きな影響を及ぼしている。文化(医療)/看護人類学的な見方を学ぶことで、自分たちのもつ「あたりまえ」を見直し、こうした気付きから、看護・健康・病気についての理解を深めることを目指す。主な内容は、看護人類学の方法と視点、病気と健康のとらえ方、多様な医療体系(出産、老い、死)、グループワーク(事例から考える文化と看護)、看護人類学からみえる現在の医療である。	
統合分野	看護の統合と実践科目	看護情報論	American Nurses Association(2001)によると看護情報学とは、看護実践におけるデータ、情報および知識を管理、伝達するために看護学、コンピュータ科学、および情報科学を統合する専門分野とある。その上で患者、看護師および、その他のケア提供者が様々な役割や状況の中で意思決定を行えるように、看護のデータ、情報、および知識の統合を促進する知識であると述べられている。 そこで、本講義では看護情報学をソフトウェア(知)、ハードウェア(技)、ハードウェア(心)の側面から着目し、今後予想される地域高齢者看護の構造変化や、急速に進化する看護の情報化に柔軟に対応するための技術や知識の学修を行っていく。	
統合分野	看護の統合と実践科目	クリティカルケア論	クリティカル(Critical)とは、「危機の、重大な、不安定な」という意味であり、クリティカルケアとは生命の危機的状況にある患者と家族のケアのことである。この科目では、クリティカルな状態にある対象の特性を理解し、患者と家族に適切な看護実践をするために、クリティカルケアの概念、理論、患者の生命・生活を支える看護の方法について学習する。また、クリティカルケアにおける患者と家族の倫理的課題、緩和ケア、クリティカルケア看護の専門性と役割について学習する。	
統合分野	看護の統合と実践科目	緩和ケア論	多様化する個人の価値や社会制度の変化をふまえて、看護師個人、多職種チーム、組織、地域で提供できる緩和ケアを考察する。その上で、看護独自の役割についても表現できるように既修得科目で得た知識と経験を活かして緩和ケアについて探求する。主な内容は次のとおりである。緩和ケアの概要と取り巻く課題、緩和ケアで活用されるアセスメントツール、事例検討、緩和ケアと補完代替療法、臨死期における緩和ケア、エンゼルメイク演習、緩和ケアに関する文献クリティーク。また、授業にはグループディスカッションを取り入れ、能動的な学修を促す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
統合分野	看護の統合と実践科目	創傷ケア論	総論では、最新の創傷治療理論について学習する。その上で、創傷治療を促進させるケアと看護師の役割を理解する。各論では、臨床での頻度が高く、かつ看護の役割が高い創傷として、褥瘡をはじめ術後創（SSI含む）、下腿潰瘍、ろう孔、ストーマ、失禁関連皮膚障害などを中心に、エビデンスに基づいた予防や治療法、実践的なケアについて学びを深める。さらに看護力を高めるスキルとして、近年注目されているスキン・ケアについても取り上げる。また、看護師の能力拡大としての特定行為について、創傷管理領域での活動を紹介する。	
統合分野	看護の統合と実践科目	リハビリテーションケア論	リハビリテーションの理念を理解し、チームアプローチの意義、チームにおける看護の役割や機能を学ぶ。リハビリテーション看護を必要とする対象の状況を理解し、わが国におけるリハビリテーション看護の現状と今後の課題について理解する。また、リハビリテーションを必要とする対象とその家族への看護を学習する。総論として、リハビリテーションを必要とする対象の理解、リハビリテーションの定義・理念、リハビリテーションチームにおける看護の役割を理解する。各論として、発達段階や健康レベル、障害の特性をふまえたリハビリテーション看護の具体について講義、演習を通して学ぶ。	
統合分野	看護の統合と実践科目	性の健康看護論	看護における「性」に関する教育・研究の動向を踏まえ、看護の対象が抱える性の健康問題について理解する。様々な性の健康問題に対する看護援助の方法について学び、看護援助のあり方について考察する。主な内容は次のとおりである。看護における「性」に関する教育・研究の動向、人間の性反応の特徴、人工妊娠中絶と看護、がん患者の性功能障害と看護、性暴力被害者への急性期看護、生殖補助医療と看護、性の相談を受けるカウンセリングの方法。	
統合分野	看護の統合と実践科目	看護研究方法論	看護研究の基礎的知識を学び、論理的・批判的思考および研究倫理を理解することが目的である。具体的な目標は次のとおりである。①看護研究の意義、方法論、および研究における倫理的配慮を説明できる。②系統的な文献検索、文献の批判的な読み方、文献レビューの方法を習得する。③研究のプロセスを説明できる。④自己の研究課題に沿って研究計画書を作成できる。	共同
統合分野	看護の統合と実践科目	看護研究	看護研究の指導では、身につけた知識や技術を統合し、問題解決と新たな看護の創造につなげていく能力や自己研鑽し続ける能力を育成することを目的とする。また、本講義は看護の統合の成果発表の場として位置づけられる。指導の中では、看護研究における倫理、研究デザイン、研究計画書、実験研究、量的研究、質的研究、事例研究、文献研究について基本的な知識を整理して伝える。また、研究の実施においては、学生、教員間で定期的に検討会を開き、研究計画書の作成、研究の実施、論文作成、発表を具体的に指導する。	共同
統合分野	看護の統合と実践科目	公衆衛生看護学実習 I	人間の成長発達段階に応じた健康の保持・増進及び疾病予防のための基礎的な看護活動展開能力を養うことを目的とする。グループに分かれ、市内の保育所と総合健診センターにおいて、それぞれ1週間の実習を行う。具体的には、①健康な子どもの保育場面を見学し、地域で暮らす子どもの発達や生活、子どもを取り巻く環境（家庭・保育園・社会）などについて学ぶ。②働く人々が利用する定期健康診断、人間ドック等の実施状況を見学し、健康管理の意義とその方法を理解するとともに、そこでの看護職の活動を見学し、それぞれが果たす活動の意義や役割を学ぶことが目標である。	共同
統合分野	看護の統合と実践科目	総合実習	既習の知識と技術ならびに各領域の臨地実習での学びを統合し、保健医療福祉における看護専門職としての自覚と倫理観に基づく看護対象者への看護実践能力を修得する。具体的には、選択した看護分野の患者・利用者に対して援助する実践に参加し、保健医療福祉チームの中で、安全かつ的確に看護を提供するために必要な知識、技術、役割遂行能力、他職種との連携・協働などの資質や態度について深く洞察し、これを身につけることを目的とする。実習施設は、各看護分野が指定する病院、健診センターまたは訪問看護ステーション等とする。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健師専門分野	保健師専門科目	公衆衛生看護対象論	公衆衛生看護学の具体的な活動理論と実践を理解するものである。公衆衛生看護の対象は、母子・成人・高齢者、歯科・障害者(児)・災害等多岐にわたる。これら対象への支援の向け、関係法規、施策、社会資源を含め、対象別の保健活動における保健師の役割と活動について学習する。また、保健・医療・福祉に関わる人々と協働して、組織的に問題解決をはかるため、保健医療福祉専門職として看護の多様な役割・機能・責務について理解を深める科目である。	
保健師専門分野	保健師専門科目	公衆衛生看護技術論	地域看護活動における支援方法のうち、個人・家族を対象に個別援助の基本的な考え方、住民ニーズの捉え方、家庭訪問・健康教育の計画、実施、評価について具体的に講義する。 家庭訪問については、業務計画のなかでの優先順位・緊急度、訪問基準、訪問技術、カウンセリング技術等を用いて実践的方法を習得する。健康教育については、学生グループを編成し、各種課題について企画、実施を実際に経験し、学生グループ相互に発表・評価しあう過程を通して実践的方法を習得する。	
保健師専門分野	保健師専門科目	公衆衛生看護診断論	公衆衛生看護活動の展開の一連の過程を学ぶことを目的とする。目標は、以下のとおりである。①公衆衛生看護診断の意義について理解する。②公衆衛生看護診断の過程について理解する。③公衆衛生看護診断を実施する上で必要な情報・情報の入手方法を学ぶ。④収集した情報から地域の課題を明確化する考え方を学ぶ。⑤ 明確化された課題に応じた活動計画策定のあり方について学ぶ。	
保健師専門分野	保健師専門科目	公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護活動における看護管理をとりあげ、看護理論と看護実践との関係での人的、物的、経済的、情報資源の理解を深める。目標は以下のとおりである。①公衆衛生看護管理の概要を理解する。②公衆衛生看護活動の法的根拠・経済的基盤を理解する。③公衆衛生看護活動における情報管理を理解する。④公衆衛生看護活動における組織運営管理を理解する。⑤健康危機状況下における公衆衛生看護活動を理解する。	
保健師専門分野	保健師専門科目	保健医療福祉行政論Ⅱ	公衆衛生看護活動の基盤となる保健・医療・福祉に関する行政活動及び民間活動の基礎を学ぶ。公衆衛生看護活動が展開されている様々な場での健康管理制度についても理解する。公衆衛生看護学概論及び保健医療福祉行政論Ⅰの履修を前提にして、保健師活動の実際に即して、保健医療福祉行政の基礎となる事項を講義する。行政、産業、学校等の場で実際に展開される公衆衛生看護活動に沿って、種々の施策を具体的に理解する。保健医療福祉行政及び公衆衛生看護活動は、社会の変革に伴って変化する住民ニーズに沿うことを主軸に置き本講義を進める。	
保健師専門分野	保健師専門科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ	地域社会の個人、家族、集団の健康の保持増進、疾病の予防、回復および地域生活への適応を援助するための公衆衛生看護について学び、保健・医療・福祉体系における保健師の役割を理解する。公衆衛生看護学実習Ⅰで習得した知識をもとに、保健所、市町村において保険事業、家庭訪問、健康相談、健康教育等の実習を通して、地域保健医療福祉行政における保健所及び市町村保健師の役割を学ぶ。	共同

## 学校法人秀明学園 設置認可に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
<b>秀明大学</b>				<b>秀明大学</b>			
学校教師学部 中等教育教員養成課程	200	—	800	学校教師学部 中等教育教員養成課程	200	—	800
総合経営学部 企業経営学科	90	—	360	総合経営学部 企業経営学科	90	—	360
英語情報マネジメント学部 英語情報マネジメント学科	70	—	280	英語情報マネジメント学部 英語情報マネジメント学科	70	—	280
観光ビジネス学部 観光ビジネス学科	70	—	280	観光ビジネス学部 観光ビジネス学科	70	—	280
				<u>看護学部</u> <u>看護学科</u>	<u>80</u>	—	<u>320</u> <small>学部の設置 (認可申請)</small>
計	430		1,720	計	<u>510</u>		<u>2,040</u>